

一 窮鼠花隠れ

原曲：春の湊に
桜花之恋塚 〱 Flower of Japan

きらり 失せ物は何処いずこで輝くか
誰ぞ知らむ
兆し 揺れる杖
導かれるままにあちらこちら

期待

一人竦すくむ

立ち並ぶ向日葵 無数に

ゆらり

潜み駆ける

またいつも通りだろう

片隅を

屋根の裏 視界の端 見落とせばたちまち手遅れ
嗅ぎ付ける網の目が

行先を

ひと齧り 命懸け 刺さる眼差しを払え
来たるその日まで

届く 触れる 手を伸ばせば

鈍く 重く 足を取られる

絡みついた根も葉も意志一つで従あるじえる主
何故に笑うのか

軍勢を

風が止む 鼓動早く掌の上転がるようだ

片時も休み無し

空蟬を

ひとかすり 命取り 叫ぶ間もなく幕切れ
いずれ出直して

片隅を

井戸の裏 床の下 骨折り当て外れても

そうさ 不確かなこの道を

行先を

ひと齧り 不撓不屈 窮まれども諦めの悪い獣共
幾度傷を残しても